



右より
近藤 眞弘議員
川口 正徳議員
草野 聖地議員

左より
寺田 英幸議員
竹内 基二議員
竹内 照夫議員

ごあいさつ

新春の候、市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素は、湖誠会に對しまして、温かいご支援とご厚情を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年は、一昨年から新型コロナウイルスの感染拡大が収まることなく、滋賀県においても感染者の増加で、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言が発出されるまでに至りましたが、そのような中でも、1年の延期を経て開催された東京オリンピック・パラリンピックは、世界中に大きな感動を与えてくれました。

現在、新型コロナウイルス感染症の

感染拡大は落ち着いてはいますが、オミクロン株による第6波が懸念されています。

本市においては、感染防止対策の強化やワクチン接種はもちろん、生活支援、事業者支援及び地域経済の再生に向け、庁内一丸となって絶え間のない対策を講じられてきたところですが、未だ収束が見えないコロナ禍に対し、今後は、更なる長期化にも備え、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を想定した新しい生活様式の確立と医療体制のより一層の充実に向け、引き続き支援してまいります。

さて、昨年の11月通常会議では、補正予算や条例の制定、改廃などの35議案を審査し、新型コロナウイルス対策関連では、感染防止対策やワクチン追加接種（3回目）に係る事業費の追加や、子育て世帯への臨時特別給付金を含む68億4千万円の補正予算を可決いたしました。

湖誠会では、本年も新型コロナウイルス対策に必要な施策の推進をはじめ、市民の皆様からご要望をいただいている道路等のインフラ整備、社会保障と教育環境の充実等を目指し、「夢があふれるまち大津」の実現に向け、市執行部とも連携し、所属議員が一丸となって尽力してまいります。

今後とも湖誠会並びに会派所属議員に対し、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

幹事長 近藤 眞弘

湖誠会は、地域の皆様のお声を大切に大津の将来を創造します

① 草野 聖地 副議長



どのような状況にあっても、子どもたちの声が聞こえ、笑顔が見られれば、地域が元気になります。そして、それが未来につながります。地域の元気のためにできることを考え、最善を尽くしてまいりますので、会派へのご支援をよろしくお願いいたします。あたらしい生活様式を楽しめるように、皆さんとともに歩んでいきましょう。

② 竹内 照夫 政調会長



【Otsu Re Born】
コロナ禍の下で、私たちの身近な暮らしも大きく変わりました。そんな時代だからこそ、「優しい心」「厳しい心」「ときめく心」「豊かな心」「美しい心」を忘れず、「大津に心をとりのどしたい」と思います。そして今年も、市民の皆様とともに、大津を生まれ変わらせるために全力を尽くしてまいります。

③ 竹内 基二



昨年は、新型コロナウイルス感染拡大を抑えることを最優先に議会全体で市政運営に取り組んでまいりました。地域でも、イベントを減らし会合も控えめに、がまんを重ねていただく一年でしたが、今年こそはマスクをはずし笑顔で皆様と市政全般を話し合える一年にしたいと願っております。

④ 近藤 眞弘 幹事長



新型コロナウイルス感染症拡大の長期化に伴い、皆様の生活も一変してしまいました。引き続きコロナ対策への施策を推進し、市民の皆様が安心して日々過ごしていただけるよう取り組んでまいります。また、皆様のお声をお聞きし、安全で安心して暮らせる大津づくり、活気となごみのある地域づくりに全力で取り組みます。

⑤ 寺田 英幸 幹事(会計)



【現場の声が大切！】
Withコロナの今、そしてAfterコロナ時代の新しい生活様式に順応しながら、大津市民、地元住民の声を丁寧に聞き、市政に通じる「かけ橋」役として、日々新、『利他に尽くす』政治をしてまいります。

⑥ 川口 正徳 副幹事長



まち作りの主役は市民の皆様です。未だ先の見通せない感染症の対策に日々ご腐心いただいていることと思います。近年、大津市の諸事業もことごとく縮小・中止となり、賑わいに欠ける状況となっていますが、市民の皆様のご意見を真摯に傾聴し、一日も早く平穏な日常を取り戻し賑わいのある大津市となるよう職務に精励してまいります。

大津市
MAP

11月通常会議 一般質問

※質問順に掲載しています。

Q 近藤 眞弘 議員

JR瀬田駅周辺の
鳥対策について

JR瀬田駅周辺では、ここ数年カラスの飛来が多くなり、周辺住民や駅利用者も驚き声や糞害で多大な迷惑を被っている。市民生活に影響を及ぼす生活環境被害であることから、市として、カラスの追い払いに有効な手段を関係各課で検討し、実施すべきであると考えているが、見解は。



専門業者によれば、カラスが天敵のいない安全な場所と認識していることが、増加の最大の原因になっているとのことであった。継続的な追い払い活動によって安全な場所でないことを認識させることが必要であると考えており、専門業者の意見も聞きながら、効果的な機材の設置や追い払い方法について、関係部局で連携し、地域の方々とともに研究していきたい。

※他に2項目の質問あり。

安全な場所と認識していることが、増加の最大の原因になっているとのことであった。継続的な追い払い活動によって安全な場所でないことを認識させることが必要であると考えており、専門業者の意見も聞きながら、効果的な機材の設置や追い払い方法について、関係部局で連携し、地域の方々とともに研究していきたい。

Q 川口 正徳 議員

南部地域における
公共交通対策について

令和2年度から実施されている路線バス石山―牧口線の実証運行について、来年度以降の本格運行を目指すにあたり減便することを地域に提案されたということがあるが、現在の取組状況と課題、今後の取組は。



今年度は朝1便、夕方2便の3便を毎日運行しているが利用が低調であり、利用促進が進んでおらず採算性が確保できないことが課題となっている。

現時点では、本格運行への移行が難しいと考えていることから、今後は、今年度の残された期間において、地域住民に対する一層の利用促進の働きかけを行うとともに、効率的な運行について、地域住民やバス事業者とともに丁寧な協議を重ねていく。

※他に2項目の質問あり。

Q 竹内 基二 議員

災害時における市民からの情報の
活用について

災害対応にあたっては、市民から寄せられる情報が非常に重要であるが、迅速・正確な把握のためにどのように取り組んでいるのか。また、情報を市民に伝えることも重要であるが、どのような情報発信をしているのか。

市民からの情報は、大津市総合防災情報システムに集約し、庁内で情報共有して災害対応につなげており、また、写真を含めた情報を投稿できる市民通報システムにより正確な情報の把握に努めている。

また、情報発信については、随時報道機関へ資料提供するとともに、比較的大規模な災害については、市ホームページを緊急災害情報サイトに切り換えて発信するなど、適切かつ迅速な情報発信に努めている。

Q 寺田 英幸 議員

人生100年時代に向けた
高齢者の雇用施策について

平均寿命が延びていく中で、高齢者の雇用に関する施策は、生きがいのある生活を送っていただくために今後ますます重要になる。高齢者が生き生きと暮らしているまちづくりを進めるために、市として今後どのように取り組んでいくのか。

高齢者の就業機会確保は大変重要であると認識している。国も、シルバー人材センター事業関連の取組の充実を図っており、本市としてもシルバー人材センターが行う事業に対して支援を行っていく。

また、移動労働相談の実施場所に老人福祉センターを追加することを検討しており、多様な就業ニーズ等に対する情報を提供し、高齢者の就労に結びつけられるよう努めていく。



※他に3項目の質問あり。

(公社)大津市医師会との意見交換について

12月14日、コロナ禍を踏まえた今後の医療体制や、市民の健康を守る取組についての見識を深めるため、次の4つのテーマについて、オンラインで大津市医師会の重永博会長並びに大森聖一副会長と意見交換しました。

1つ目は、「**新型コロナウイルス対策**」。再拡大を防ぐためには、マスク着用や手洗いの徹底等の基本的な対策が重要であること、感染防止活動の継続が必要であることを再認識いたしました。加えて、三回目のワクチン接種に向けては、市民への丁寧な説明が必要との御意見も賜りましたので、会派としても、市に働きかけていきたいと考えております。

2つ目と3つ目は、ともにIT活用に関するテーマで、「**特定保健へのIT化の進捗状況**」、「**行政・三師会におけるICTの活用**」。

例えば、カルテの電子化は、診療業務の効率化で患者満足度の向上につながるとともに、今後ますます必要となる病院間・行政との連携にも有効です。また、行政との連携に関して

は、ICTの活用が十分に進んでいない現状を伺い、行政としてのIT化の支援・推進が重要であると認識いたしました。

4つ目は、「**三大疾病に係る啓発活動**」。コロナ禍により各種検診の受診率が低下しているとのことでした。市議会においても、議員提案でのがん対策推進条例の制定をはじめとして、取組を進めてきましたが、現在の状況を憂慮しており、市に対してさらなる啓発を求めています。

また、あわせて男性特有の前立腺がんの検診の必要性についても御意見を賜りましたので、受診率向上に向けて取り組みたいと考えます。

今回の意見交換は、市民の健康を守るために何が必要かを改めて考える貴重な機会となりました。会派として、今一度初心に戻り、今後の施策の在り方について、より一層の調査・研究に励んでいきます。

